令和4年度　福井県立道守高等学校　学校評価書（通信制）

注：　◎大いに成果が見られた　　〇それなりの成果が見られた　　▼課題である

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習支援	生徒の実態を考慮し、ひとりひとりのニーズに即した受講登録ができるようさらなる情報の共有を図り、共通認識のもと指導する。	◎教職員は単位修得に至る道筋についてわかりやすく説明したと解答しており、通信制の学習への満足度は、生徒は92%（R3　93%）と高い水準を維持していた。ただ、保護者が91%（R3　99%）と減少しており保護者への丁寧な説明が求められる。 〇新入生に対しては、入学前の事前説明会や合格者登校日前後の担任との話し合いなど受講登録について詳しく説明をする機会は限られるが、そのなかでも必履修科目の必要性を含めた丁寧な説明ができた結果と考えられる。特に、3・4年生については、多くの選択科目があるため、引き続き科目の内容等を丁寧に説明していくことが大切である。	・新入生に対して、単位修得や受講登録について十分に理解してもらうため、入学前に行う「入学希望者個別相談会」等において、通信制のしくみや学び方を丁寧に説明する。 ・合格者登校日前後での担任との話し合いや入学後のLH、個人面談等の様々な機会を利用し、4年間の教育課程に沿って卒業までの科目選択の道筋を詳細に説明する。 ・3、4年生の選択科目の登録においては、本人の希望を優先することは大切ではあるが、卒業後の進路希望を念頭に選択するよう助言を行うことで、受講科目への満足度を高める。
	生徒の学習意欲を喚起し学習成果を上げるために以下の点に留意して指導する。 ・報告課題の内容の充実 ・水曜学習支援の啓蒙 ・丁寧な添削指導 ・学習到達度の明示 ・生徒のICT機器・教育番組の積極的活用	〇教員が面接指導や添削指導を工夫し、生徒の学習意欲を喚起する指導ができたと答えているのに対し、生徒の添削指導・面接指導に対する満足度は89%（R3　90%）、保護者の満足度は91%（R3　97%）といずれも高く、目標値を上回った。担任をはじめ各教科担任が通信制での学習の進め方について丁寧に説明し、報告課題の添削や面接指導を工夫して、生徒一人ひとりに対するきめ細かい学習指導を行った成果と思われる。ただ、理解が深まったと答えた89%の生徒の内訳をみると、「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒が、「そう思う」と答えた生徒より5割以上多く、よりわかりやすい面接指導に向け、さらなる指導方法の改善が必要である。	・各教室に設置されたICT機器の効果的な活用や放送視聴のあり方を教科会で協議し、面接指導の更なる充実を図る。 ・通信制においては、報告課題の添削指導が学習指導上の重要な特徴であることを踏まえ、基礎的な学習内容の定着を図るとともに、生徒の自主的な学習を促す内容の精選を行う。また、教員間の共通認識のもと、添削指導により学習の到達度をわかりやすく示し、学習意欲を喚起する。 ・水曜学習支援の利用を啓蒙し、個別指導を通して自学自習をサポートする。
生徒支援	特別活動を通して、思いやりや助け合いの心を持って行動できる生徒の育成に努める。また、いじめの早期発見や早期解決に向けた取り組みに努める。	◎いじめの防止や早期発見を念頭に置いた「安心して学校生活を送れているか」という問いに、生徒と保護者両者とも9割を超える肯定的評価をしており(生徒95%（R3　96%）、保護者91%（R3　96%））、学校行事や生徒会活動及び部活動を通して、思いやりや助け合いの心を育成することができた。アンケートや面接を通して、生徒の状況やいじめの早期発見・解決を図ることができた。	・日頃から教員間、カウンセラー、保護者との情報交換を密にすることで学校生活、家庭生活における生徒の変化を見逃さないように努める。登校指導で生徒の心身の健康状態を把握する。 ・なるべく多くの生徒に対しアンケートや面接を実施し、学校行事や部活動への参加を促して、他者とのよりよい関係を築くことで安心した学校生活が送れるように努める。 ・休みがちな生徒の実態、欠席理由を把握し安心して登校できるように努める。
	研修会等で具体的な問題を提起し、生徒自身に考えさせる場面を設けることで、社会の一員としての規範意識を身につけさせる。	◎社会の一員として、交通法規や喫煙・薬物問題を念頭に置いた「規則やマナーを守ることが出来たか」という問いに、生徒99%（R3　99%）、保護者95%(R3　94%)と肯定的な評価をしており、4年度も特別指導を受けた生徒がいないなど、成果をあげている。今後も交通規則や社会のマナーについての規範意識の遵守と、その必要性について指導していきたい。	・交通事故やインターネットによるトラブル、スマートフォンの使用方法等、生徒の実態に即したテーマでLHにおける研修会を実施し、規範意識を遵守する大切さを生徒が自覚できるように努める。 ・保護者に対しても敷地内での禁煙、安全運転をお願いする。 ・巡視や個別指導を継続して行い、問題行動の防止に努める。 ・必要に応じて下校時のスクールバスの乗車指導を行い交通マナーの向上に努める。
	生徒に特別活動への参加を促し、集団の中で他者と協力することの大切さを伝える。	◎今年度、「ロングホームや学校行事に参加することが出来たか」という問いに、生徒、保護者ともに成果指数70%以上の目標を上回った(生徒86%（R3　88%）、保護者80%（R3　84%））。生徒会誌『若樹』誌上における学校祭に関する原稿には、満足度の高さが窺える内容が目立った。 ◎部活動については,バドミントン部、陸上、文芸部が活動。特に陸上部については全国高等学校定時制通信制体育大会女子砲丸投げ優勝、女子円盤投げ第3位、男子800m6位入賞など、成果が顕著であった。毎回、複数の顧問が共に活動し、生徒は楽しさや充実感を感じている。活動の情報を提供して、生徒の興味を重視しながら活動を広める必要がある。	・学校行事や部活動を通して集団の中で他者と協力する大切さ、楽しさを感じさせることに努める。 ・若樹祭については、日程の工夫（若樹祭プロジェクトの持ち方等）、生徒への呼びかけ、ポスターなどによるPRの充実、年度の早い時期からの参加への啓発により、生徒の興味・関心を持たせるように努める。 ・部活動が他の生徒にも広がるように勧誘する。
進路 支援	生徒のコミュニケーション力を育てるとともに、自己理解を深めさせ、進路について考えさせるために、以下の実践を行う。 ・進路ガイダンス ・進路オリエンテーション ・職業観育成講座 ・教員との面談 ・様々な関係機関との連携 進路指導の情報を担任の先生方と共有し、きめ細かい指導に役立てる。	◎進路ガイダンス・オリエンテーションの活用、個人面談の実施、卒業生による職業講話を通して、生徒の自己理解を促し、また、「進路だより」を発行し、進路に関する情報を随時掲示するなど、進路について考えさせるよう努めており、教員の取り組みへの意欲は大変高い。その結果、進路について考えたという生徒・保護者はともに成果指数70%以上の目標を上回った（生徒88%（R3　80%）、保護者84%（R3　69%））。学校での進路に関する様々な取り組みが、家庭においても、保護者とともに進路について考える機会に繋がり協力を得られたのではないかと思われる。また、様々な生徒への理解を深めて対応できるように「ふくい若者サポートステーション」との連携も今年から動き始めている。 ◎就職希望の生徒にはオリエンテーションやLHを利用して身だしなみの動画を視聴させるなどして意識づけをおこない、サマー求人企業説明会への参加に向けて良い準備ができた。 ▼進路に関して興味の薄い生徒も10%程度いる。就職に比べて進学指導については働きかけが十分でなくまだまだ改善できる点が多い。	・進路ガイダンス、進路オリエンテーション、就職・進学ガイダンス等の企画、LHでの個人面談等を通して、入学時から自己理解を深めさせ、働く意義や卒業後の生き方を考えさせる。 ・「自分は変えられる」という意識をもって自らの枠を超えていくようなきっかけを持たせるため、講演などを活用し生徒の気持ちに働きかける。 ・進学希望者への情報提供や自己理解につながる働きかけについて、担任と連携しながら保護者・本人の自己理解が深まるような指導を継続的にすすめる。

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
生涯学習	「通信道守」などの発行により、生徒・保護者に適切な情報が届くように工夫する。	◎教員は、「通信道守」などを活用して生徒・保護者に対し積極的に情報発信に努めている。各家庭に「通信道守」を送付し、生徒向けには教室に掲示した。生徒・保護者ともに「通信道守」を配布・送付していたことで学校行事での生徒の様子や、保護者の方にも知っていただきたい大切な情報を伝えることができた。学校と家庭を繋ぐ情報誌として定着しており、生徒・保護者ともに成果指数目標を上回ることができた（生徒96%（R3　92%）、保護者80%（R3　81%））。年6回「通信道守」を発行し、よりタイムリーな話題を提供できたことも要因であると考えられる。目標は上回ったが、一年前の記事のコピーに陥らないよう努めていく必要がある。	・引き続き、各家庭に「通信道守」を送付、生徒向けには教室に掲示する。さらに、入学式や保護者会、また本校ホームページなどで「通信道守」の存在や内容を紹介し、学校生活に必要な情報を得られるということを発信していく。 ・「通信道守」を年6回発行し、より学校生活についての情報や様子がわかるような話題や内容、また紙面の工夫を考えていく。
	授業・LH・広報などの機会を利用し、様々なメディアから広く情報を得たり、正確な知識を身につけることの有効性を伝える。	◎具体的取り組みが、「様々なメディアから広く情報を得る」となったのに関連して、質問項目が変わったため、数値が改善された（R3　46%）。本だけでなくいろいろな媒体から情報を得ることが大切であると伝えるのが目標であり、生徒88%というのは良好な結果である。ただし、情報の信憑性や正確性についてはメディアによってバラつきがあるとも考えられるため、フェイクニュースなどに惑わされないメディアリテラシーを身につける取り組みも重要である。	・インターネットの中には正しくない情報も含まれていることを自覚し、利便性だけに捕らわれずに、新聞・書籍などからも情報を得るようにはたらきかける。
健康安全	生徒が美化ボランティアや清掃活動に自主的に取り組むことができるように、家庭と連携しながら美化意識を高めていく。	◎清掃や美化ボランティアに取り組んだ生徒の割合は94%（R3　87%)と7ポイント上昇しており、生徒が自覚をもってしっかり美化活動に取り組んでいる様子がうかがえる。一方で、家での整理整頓や掃除をしている割合は52%(R3　54%)で、保護者の方々から見た評価は厳しめであるといえる。 ◎美化ボランティアにも登校しているほとんどの生徒が参加しているという印象であり、自発的に美化活動に取り組む姿勢が確立しているといえる。 (前期7/17・138名、後期12/18・118名）	・学校生活における清掃活動に対する取り組みの高さが家庭における整理整頓の意識の向上に結び付いていないのは残念である。単位習得という観点からも、学習用具や合格済みレポートの保管・管理などの通信制で学ぶ上で欠かせない態度の育成について検討していきたい。 ・各清掃場所の監督の先生方による丁寧なご指導により、清掃への取り組みは堅調である。現在の良好な雰囲気を今後も維持し続けることが肝要である。
	講演会等を通して薬物、喫煙が体に及ぼす影響を理解させ健康への意識を高める。年度当初より、ポスター等による健康診断に関する啓蒙活動に努める。	◎喫煙や薬物乱用防止への取り組みについては、生徒・保護者ともに97%（R3　生徒97%、保護者94%）という高い達成率を実現している。社会全体のこれら心身に有害な物質に対する悪影響への理解が浸透していることの表れであると考えることができる。 〇健康診断については、担任の先生方を通じて生徒に対して受診を促している。ただ、費用の自己負担のない指定医療機関「ふくい総合健康プラザ」での受診には数か月前からの予約が必要であり、本人や保護者の予定が計画しづらい面も52%（R3　57%）という受診率の低下に影響しているとみられる。	・講習等の機会を設けて、薬物や喫煙の体に及ぼす影響を伝えていく。 ・校舎内外の巡視を継続し、喫煙防止やゴミの分別を根気強く呼びかけていく。 ・1年を通じて感染症対策が求められる中、日々の健康観察と共に健康診断受診の重要性についても生徒自身の意識を高められるように、担任の先生方と協力しながら努めていく必要がある。
生徒理解	生徒情報交換会や事例検討会においてSC・SSWとの連携強化を図り、すべての教職員が生徒理解や生徒の状況把握に努め、生徒の心のケアにつなげていく。	◎生徒と触れ合う時間が限られている中、生徒が先生に親身にかかわってもらえていると答えた割合は94%（R3　90%）と非常に高い評価となった。 ◎すべての教職員が教育相談の研修会や情報交換会を通して生徒の理解や状況把握に努め、生徒や保護者からの相談に対して、誠意をもって取り組んだと答えている。生徒数の増加に対して教員が危機感をしっかり持ち、学校生活のあらゆる場面で生徒とよりよいかかわりができるよう、学校全体で取り組めたと考えられる。	・生徒数が多くなってきて、大勢が苦手な繊細な生徒にとっては非常につらい状況になっている。教室での様子を全教職員が注意深く見守り、不登校状態をできるだけ未然に防げるよう、「生徒情報交換会」や「事例検討会」を充実させていく。 ・気がかりな生徒や対応に苦慮する生徒については、学校全体で1つのチームとして教職員が共通理解を図ることができるようにする。そのために「生徒情報交換会」、「事例検討会」等にSC、SSWにもできるだけ参加してもらい助言をいただく。
	保護者面談や「保護者のつどい」の内容の充実を図り、保護者への支援が生徒支援につながるようにする。	◎今年度も、教職員の生徒への対応について、保護者の満足度は高かった。 〇本校の教職員は生徒の心身の健康について、相談しやすいと回答した保護者は83%（R3　87%）であり、一定の評価はできる。しかしながら日曜のみのスクーリングの限られた時間の中で相談することを生徒や保護者があきらめることがないよう、さまざまな相談体制について、さらに周知していく必要があると思われる。	・来年度も引き続き「保護者のつどい」を開催し、保護者の安心や信頼につなげたい。 ・生徒が安定した学校生活を送ることができていても、保護者の中には将来への不安を抱えている人も多いのではないかと思われる。生徒の中長期的目標の達成を視野におき、早期に適切な支援につなげられるよう、生徒や保護者に対してSCやSSW、その他の専門機関等の周知をしていくことも必要だと考える。